

第3週(1月15日～1月21日)トピックス:<新型コロナウイルス感染症>

第3週の新型コロナウイルス感染症の定点当たり報告数は、本市6.82(前週5.63)、全国12.23(前週8.96)となり、ともに増加しました。

新型コロナウイルス感染症は、昨年5月8日に感染症の感染法上の位置づけが、全数把握から5類定点把握に変更されました。その後、定点当たり報告数は増加し、夏季にピーク(本市15.25:36週、全国20.49:35週)を迎えたのち減少しましたが、11月の第47週から、本市、全国共に再び増加傾向となっています。(図1)。

都道府県別定点当たり報告数の直近3週の推移を見ても、地域でやや偏りはあるものの、全国的に増加傾向にあります(図2)。

新型コロナウイルス感染症の原因ウイルスであるSARS-CoV2は、感染力の高い変異株が出現すると、流行が急拡大し、その後しばらくして患者数は減少しますが、また新たな変異株が出現すると患者数が増加する、という状況が繰り返されています。その主な変異株の変遷をたどると、武漢株・アルファ株・デルタ株・オミクロン(BA.1株・BA.2株・BA.5株・XBB株、EG株(エリス株))などがあり、現在は、昨年11月頃から変異株「オミクロンJN.1株」の感染者数がヨーロッパやアメリカで増加し、日本にも拡大しつつあります。

オミクロンJN.1株は、オミクロンBA.2.86株(ピロラ)の子孫株で、これまでの変異株よりも、免疫逃避能力(過去の感染やワクチン接種で獲得した免疫を回避する能力)が高まっている可能性があることが報告されており、世界保健機関(WHO)は、昨年12月19日に「オミクロンJN.1株」を「注目すべき変異株」(VOI)に指定しました。

今後、新型コロナウイルス感染症の再増加に、インフルエンザ等の呼吸器疾患の流行が重なる可能性もあり、感染動向には注意が必要です。

感染を予防するために、インフルエンザの対策と同様、手洗いの徹底、必要に応じたマスクの着用など基本的な感染対策に努めましょう。外出時は人ごみを避け、室内においてはこまめに換気し、免疫力向上のためにバランスの取れた食事や十分な睡眠などを心掛けましょう。また、重症化予防のためには、新型コロナワクチンの接種が有効です。本市では、令和6年3月31日まで新型コロナワクチン料が無料で接種できます。

○京都市情報館「新型コロナウイルス感染症発生動向について」

<https://www.city.kyoto.lg.jp/hokenfukushi/page/0000312164.html>

○京都市情報館「京都市新型コロナワクチン接種特設サイト(接種をお考えの方へ)」

<https://www.city.kyoto.lg.jp/hokenfukushi/page/0000307283.html>

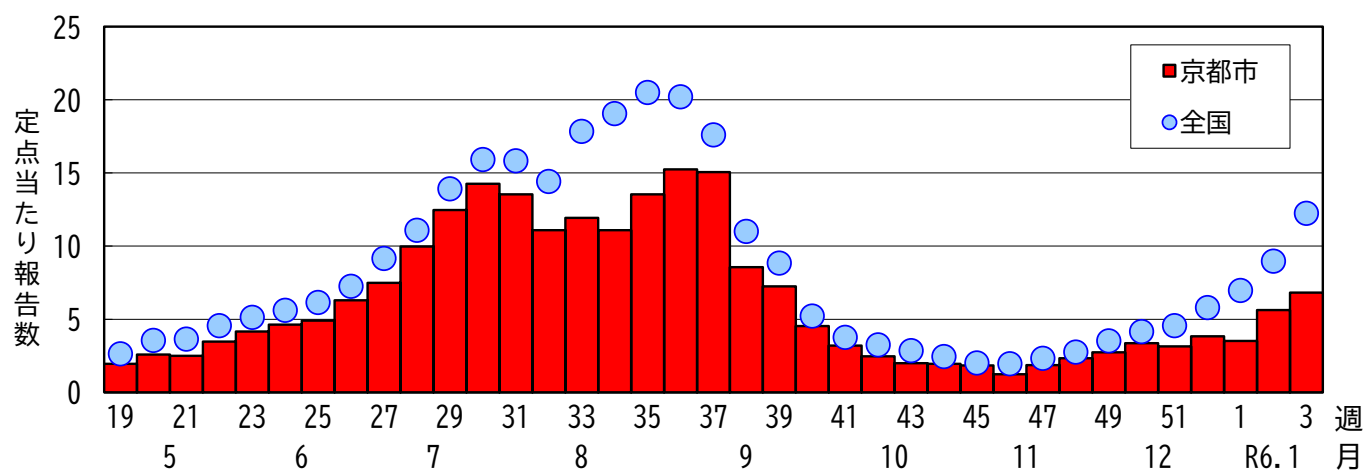


図1.新型コロナウイルス感染症の定点当たり報告数の推移(令和5年第19週～令和6年第3週)

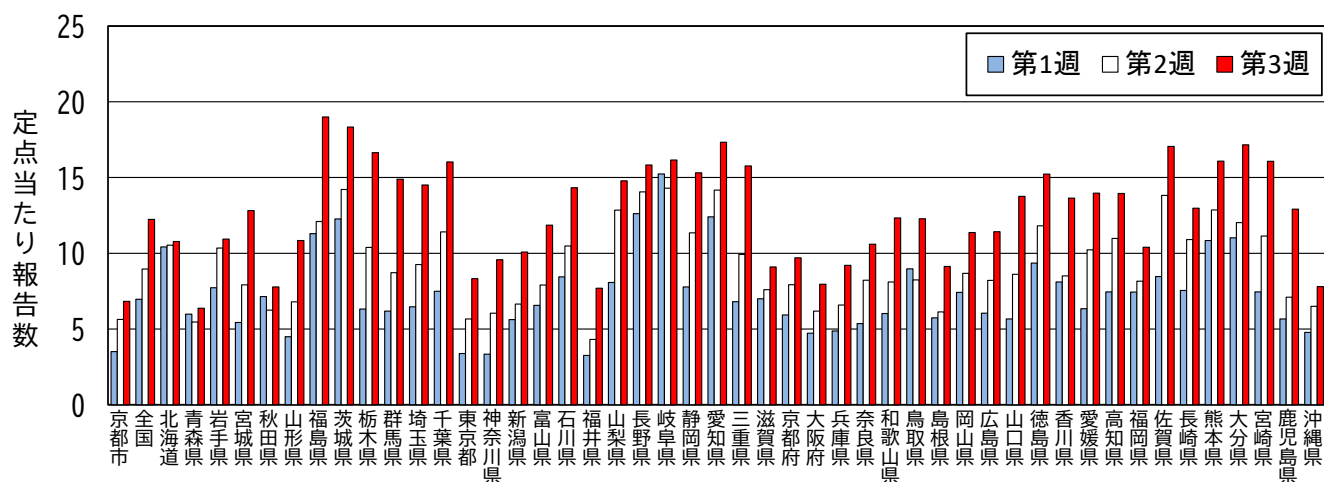


図2.都道府県別定点当たり報告数の推移(令和6年第1週～第3週)